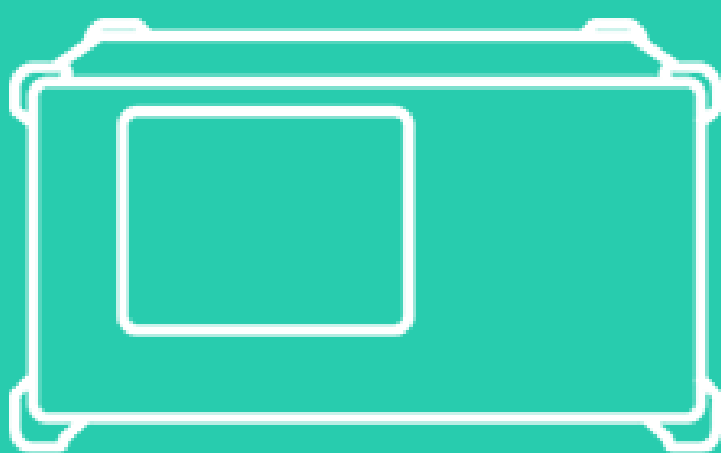


50周年

Anritsu



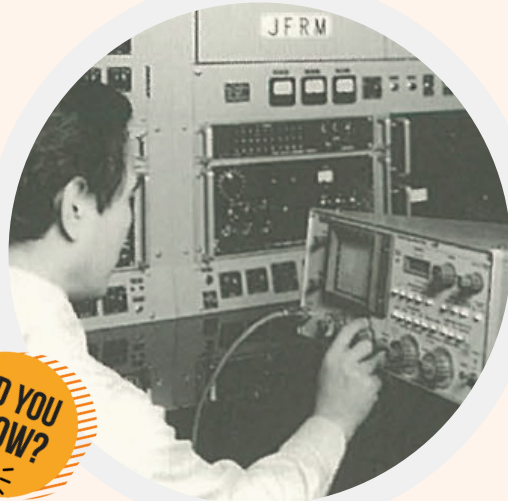
スペクトラムアナライザ
Since 1974

時代とともに進化し続けてきたアンリツのスペクトラムアナライザ。半世紀にわたり、アンリツは無線通信や放送、電子機器などの領域で、測定技術の限界を押し広げてきました。挑戦と革新を重ね、幅広い分野の開発・製造・保守に確かな価値を提供してきた経験をもとに、これからも持続可能な未来を目指し、スマート化が進む社会に貢献する製品を提供していきます。

1974 市場参入と初代モデル

1974 年に 100 kHz～1,700 MHz をカバーする MS62A を商品化してこの市場に参入。当時、スペクトラムアナライザは高価で取り扱いも難しい測定器。しかし、MS62A は安定した性能と優れた操作性で普及を後押し、当社の重要な製品群へと成長。

開発秘話：MS62A を実現するための基幹部品として、当社オリジナルの広帯域ミキサを開発した。当時では画期的な技術であり、当社スペクトラムアナライザの基盤技術となり後継機種でも活用された。



DID YOU KNOW?
+ 〇

MS62A

1983 MPU とオートチューン搭載で簡単操作

1983 年、ローカル信号源にシンセサイザを採用した高性能な MS611A を開発し、キャリア近傍の高分解能測定を実現。MPU 内蔵により、設定のリモートコントロールや測定の自動化を実現、なかでもオートチューン機能は、測定対象信号の検出と測定パラメータの自動設定により測定の効率化に貢献した。



MS611A

1984 マイクロ波対応

1980 年代初頭の通信事業の自由化と民生機器市場でのマイクロ波利用拡大を背景に、MS710A を開発。外部ミキサを使用することで 140 GHz まで対応でき、マーカ機能などを充実させた。コストパフォーマンスに優れ、マイクロ波回線の建設、保守用機器として世界各国に輸出された。



MS710A

70's ~ 80's

50 ANNIVERSARY

RF 帯小型機为先駆け

RF 帯の普及機として開発された上限周波数 2.2 GHz の MS2601A。ハイブリッド IC 化と回路構成の工夫により手頃な価格・小型化を実現。Personal Test Automation(PTA) 機能内蔵でユーザによる測定プログラム作成が可能。TV チューナ製造、無線機製造・保守、EMC 測定などで活躍し、ヨーロッパ市場向けには現地生産も開始。

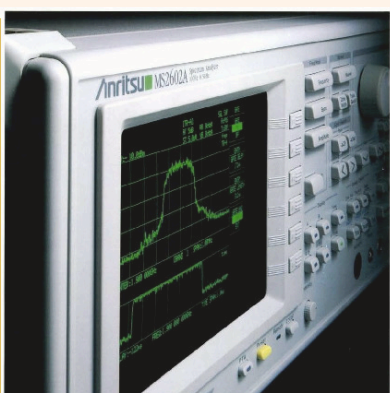


MS2601A(1988)

開発秘話：スペクトラムアナライザとしては珍しく視認性の高いアンバー色の画面表示を採用。特許取得のゾーンマーカ機能が初搭載。任意の周波数範囲を設定し、その範囲内でピーク値を自動的に検出できる便利機能は、多くのお客さまから好評をいただいた。

デジタル無線対応の初号機

上限周波数 8.5 GHz に対応した MS2602A は、携帯電話のデジタル化に向け、トリガ機能や高速掃引機能を強化し、デジタル携帯電話の基地局建設や通信機器製造において幅広く採用された。デジタル無線システム対応の技術基盤を確立。



MS2602A (1992)

当社初の持ち運び可能な小型機

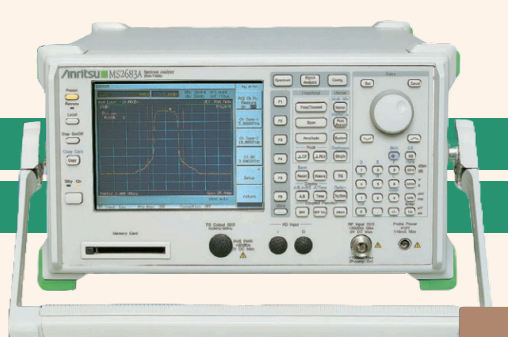
1990 年代後半、無線局や中継局の建設・保守で求められる小型・軽量化を実現した MS266x シリーズを発売。ミリ波帯の通信利用拡大とともに、固定アクセス回線の LMDS や無線 LAN、ITS など新たな用途の需要増加に伴い 40 GHz まで対応。豊富なオプション構成による多用途対応とリーズナブルな価格、必要十分な性能を備え、米政府機関や欧州・印の放送局に大量採用いただいた。



MS266x シリーズ

次世代無線通信と放送技術を支える兄弟機

2000 年代初め、3G の開始によるモバイル通信の本格化や無線 LAN の普及が進み、無線通信は高速化と多様化が加速。また、多くの国々でアナログ放送からデジタル放送への移行が本格化。このような多様なニーズに応えるべく、スペクトラムアナライザ MS268xA シリーズ、デジタル移動無線送信機テスタ MS8609A、デジタル放送信号アナライザ MS8901A といった多彩なモデルをリリース。



MS268xA シリーズ

広ダイナミックレンジ、広分解能帯域幅、高速掃引を備え、無線 LAN や W-CDMA を含む各種通信規格の送信評価に対応。



通信
市場

MS8608A/
MS8609A

日本国内の W-CDMA 基地局の建設・保守市場で圧倒的な信頼と実績を確立



放送
市場

MS8901A

RF マイクロと DSP 技術の融合。国内放送市場で揺るぎない地位を確立。

汎用型から特化型へ

開発秘話：これらの機種は、当社の市場における影響力を広げた象徴的な製品。市場のニーズを的確に捉え、汎用型から特化型へと拡充。MS268xA をベースに、通信市場では MS860xA シリーズ、放送市場では MS8901A を展開し、それぞれの分野で多くの実績を築いた。



80's ~ 00's

初のハイエンドシリーズ

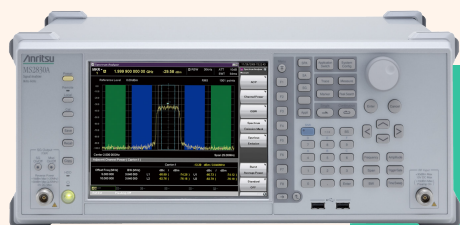
業界トップクラスの測定精度と広ダイナミックレンジを実現した当社初のハイエンド機。3G の普及拡大と通信速度の高速化が本格化するなか、高周波・広帯域化が進む移動通信システムに対応可能な MS269x シリーズをリリース。信号発生器を内蔵し、送信試験だけでなく受信試験やアンプ測定を1台で実現。広帯域 FFT 解析やデジタイズ機能を活用して信号を高速かつ高精度に解析できるシグナルアナライザ機能も初搭載。海外大手の基地局ベンダにおける大量採用を達成。



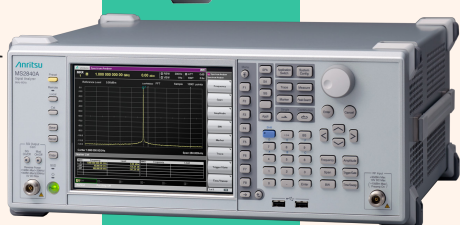
MS269x シリーズ
(2007)

進化し続けるラインアップ

優れたコストパフォーマンスと直感的な操作性を受け継ぎ、各種デジタル無線装置、業務用無線機や IoT 無線モジュールなど幅広い用途に対応する MS2830A。クラス最高の高い近傍位相雑音性能を備え、レーダやモバイルバックホールなどの用途に最適な MS2840A。5G や衛星通信など次世代の広帯域・マルチキャリア通信の要求を満たす MS2850A。技術の進化と多様化するニーズに応えるため、確かな性能と信頼性を兼ね備えたソリューションを提供。



MS2830A



MS2840A



MS2850A

ハンドヘルド型の革新者

携帯性と高性能を兼ね備えた業界初のハンドヘルド型の MS2711A。軽量かつ頑丈な設計に加え、バッテリー駆動対応により、AC/DC 電源を必要とせず、いつでもどこでも高精度な測定が可能。通信システムの問題を迅速かつ簡単に発見、確認、記録、解決できるツールとして、多くのお客さまから高い評価を得た革新的な製品。



MS2711A

ハンドヘルド型の現行機種

最新のリアルタイムスペクトラムアナライザ対応の MS2090A、ベストセラーの MS2720T、上限周波数 170 GHz 対応の MS276xA シリーズなど、多彩なラインアップ。用途や予算に応じた柔軟な選択が可能。



MS2090A

電波干渉の検出と電波利用の最適化を支援

急増する無線通信環境での干渉波や違法無線による通信不具合などの悪影響を最小化するために設計されたリモートスペクトラムモニタ。問題信号を特定し、ネットワークの安定性向上と電波資源の効率的な利用を実現。陸上移動無線システム (LMR)、セルラ、衛星通信、防衛用周波数帯の監視に最適化された高性能モデル。



MS2720xA シリーズ

手のひらサイズで超広帯域を実現

MS276xA シリーズは、当社特許取得済みの NLTL 技術を採用し、優れたコストパフォーマンスを実現。9 kHz から 170 GHz までの広範囲な周波数帯域をカバーし、優れたダイナミックレンジと DANL を提供。コンパクトなデザインは、ラジオ天文学、自動車レーダ、アンテナテストなどの先進的なミリ波アプリケーションに最適。D バンド全体にわたる研究開発をサポート。



MS276xA シリーズ

未来を切り拓く、アンリツの挑戦

アンリツのスペクトラムアナライザは、50 年にわたり無線通信の進化とともに歩んで参りました。これからも 6G を含む次世代技術の発展に寄り添い、社会に新たな価値を提供するソリューションを創出して参ります。私たちは、次の 50 年に向けて未来への挑戦を続けます。

